

## 小千谷市などで新潟米のテレビCM撮影、浅田真央さん来市

JA全農にいがたは9月上旬、「30年産新潟米」のテレビCM撮影を、小千谷市などで行いました。CM撮影にあたり、元フィギュアスケーターの浅田真央さんが小千谷市を訪れました。テレビCMには、当JA管内の組合員も出演しています。テレビCMの撮影風景を写真で紹介いたします。



## ふれあい感謝祭 児童がコシ販売

10月28日(日)、JA越後おぢや四ツ子支店は、支店協同活動の一環で、「ふれあい感謝祭」を開きました。会場の吉谷トレーニンングセンター特設会場には、組合員や地域住民ら約400人が来場し、にぎわいました。



▲「ヨシヒカリ」を販売する吉谷小学校の児童

販売ブースでは、吉谷小学校の5年生19人が新米の「コシヒカリ」を「ヨシヒカリ」と名付けて販売しました。これは、児童が総合的な学習の時間を活用し、保護者や地元農家の協力を得ながら、大切に育ててきたお米です。同校は今年、7・5㍓の学校田で「コシヒカリ」を栽培し、222㍓を収穫しました。当日は、1㍓袋入りと2㍓袋入りを用意。合わせて86㍓を販売しました。

参加した児童は「お客さんの呼び込みも頑張った。完売してよかった」と笑顔で話しました。

感謝祭は、組合員や地域住民との交流を目的に毎年、行っています。地域の子どもたちが祭りばやしに合わせて獅子舞を披露したり、JAのよさこいグループ「凛(りん)」などが踊ったりして会場を盛り上げました。

## 新潟県錦鯉品評会 泳ぐ宝石 美しさ競う



▲農水大臣賞に輝いた丸堂養鯉場の「紅白」

10月27日(土)、28日(日)の両日、新潟県と県錦鯉協議会は、農林水産参加第58回新潟県錦鯉品評会を小千谷市総合体育館コミュニティプラザで開きました。第80超部(体長80センチを超えるもの)に出品した長岡市の丸堂養鯉場の「紅白」が、全体総合優勝1席の農林水産大臣賞に輝きました。同社の農水大臣賞は昨年続き2度目。

同2席(水産庁長官賞)は小千谷市の大日養鯉場が第80超部に出品した「昭和三色」が入賞しました。品評会には県内のニシキゴイ生産者が、丹精して育てた逸品が集まりました。審査は、体形や色彩、斑紋などを総合的に判断しました。今年は、804点が出品されました。品評会は、第15部(15センチまで)から第80超部までの5センチ刻みの規格で設定した15の各部で、優勝したニシキゴイに県知事賞が贈られました。審査終了後の一般公開には、国内外から愛好者ら1400人ほどが訪れました。審査委員長を務めた県水産課の丸山克彦課長は「総合優勝のニシキゴイは、迫力があり堂々としている。緋盤(ひばん)が美しく、風格と気品がある」と講評しました。

## 肉牛体重測定 最高900キ

10月31日(水)、JA越後おぢや管内の肉牛肥育農家で組織する「小千谷肉牛部会」は、肉牛の体重測定会を開きました。部会員や関係機関の職員ら9人が参加しました。部会員の牛舎を参加者全員で回り、合計62頭を測定しました。割り当てられた5桁の識別番号を読み上げてから体重測定器に載せ、7月に行った前回の体重測定会以降に増加したキロ数を確認しました。当日測定した牛の最高体重は、月齢30・4カ月で900キでした。JA東日本くみあい飼料新潟営業所の志田茂雄所長は「大きい牛もいるが、小ぶりの牛



▲牛を測定器に載せて体重を量る部会員

も見られるので、肥育中期にエサの量を増やして、体重増加に努めてほしい」と呼び掛けました。冬の肉牛肥育におけるポイントも指導しました。この体重測定会は年3回行っており、次回は3月の予定です。

## トマト収穫体験に笑顔 小見山さんが初開催

11月3日(土)、小千谷市日吉の小見山優子さんは、両新田のJA越後おぢや育苗ハウスで、養液土耕栽培トマトの収穫体験を行いました。初の試みで、市内外から家族連れや友人同士でグループら43人が参加しました。

小見山さんは、今年就農し、小千谷養液土耕栽培組合に加入した農業1年生です。自らの体験を踏まえ、子どもたちに収穫の喜びや土の匂いなどを知ってもらい、地域農業への理解や食に対する関心を深めてもらう。また、収穫後の残ったトマトの有効活用と規格外のトマトを使った料理の試食や加工品を提供することで、新たな活用方法を探ること

も目的としました。小千谷養液土耕栽培組合が協力しました。

子どもに親しみを感じてもらおうと「みんなできとう、もぎもぎトマト大作戦」と名付けました。

小見山さんは「たくさんの人に来てもらい、笑顔が見られてよかった。皆さんの思い出になってくれればうれしい」と話しました。収穫体験後には、トマトだしのみそ汁やミートソースを使ったピザトーストなどを参加者に振る舞いました。



▲参加者にトマトの魅力を伝える小見山さん

## 簡単でヘルシー 健康づくり料理教室

11月11日(日)と12日(月)、家族に喜ばれる料理をと、JA越後おぢやは、クッキング教室を開きました。会場はグリーンパークで、組合員や地域住民ら28人が参加しました。

家族の健康づくりに役立ててもらおうと、今回のテーマは、油の抑えを抑えた「簡単ヘルシー料理」としました。

講師は、厨房用機械器具を取り扱う日本リビング



▲油を抑えたヘルシー料理を学ぶ参加者

サービスの平田充代表取締役が務めました。

平田さんは、スチーム鍋を紹介し、「材料自身が持つ味や風味を損なうことなく引き出せるので、余分な調味料による味付けが不要だ。塩分や糖分の取り過ぎを防げるので、活用してほしい」と呼び掛けました。

この日は、「油で揚げない酢豚」「花シユウマイ」「大芋」「赤飯」などの作り方を学びました。

参加した組合員は「健康を意識した料理レシピは、ぜひレパートリーに加えてみたい」と話しました。

JAは年4回、料理教室を開いています。テーマは、郷土料理や時短料理など季節ごとに変えているのが特徴です。次回は1月に「刺身の切り方と盛り付け方」をテーマに開きます。

## カリフラワー出荷反省会議 品質向上さらに

11月13日(火)、JA越後おぢやのカリフラワー生産組織「北部出荷組合」は、グリーンパークで出荷反省検討会議を開きました。生産者や青果市場ら55人が参加し、今年産の栽培経過や出荷実績などを共有しました。

出荷組合の中野拓朗組合長は「定植が始まった7月中旬以降に降雨がほとんどなかったり、8月末に降雨



▲今年産のカリフラワー生産を報告する中野組合長

が続いたり、天候に苦労した年だったが、品質、収量とも昨年を上回る出来たと話しました。

今年新たに生産者5人が加わり、栽培面積が1・6畝ほど拡大しました。生産者42人で17・2畝のカリフラワー栽培に取り組み、総出荷量は5万kg(1kg6キ)に達する見込みです。これは、昨年を1200kg上回る実績。出荷は12月上旬頃まで続く予定です。

総合討議では、生産者の金崎優さんが、10月に東京で行った販売促進活動を報告。金崎さんは「お客さんが実際に、カリフラワーを手に取った時の反応を見るのができてよかった。より一層、品質の向上に努めていきたい」と力を込めました。

## 地域へ感謝込め 歩道空き缶拾い

11月13日(火)、JA越後おぢやの全6支店は、支店協同活動の一環として、小千谷市内で歩道の空き缶拾いを行いました。地域貢献活動に職員51人が参加しました。年2回行っており、春に続き今年2回目です。

職員は、ごみ袋を手に、空き缶やペットボトルなどのゴミを拾い集めました。この日に掃除した歩道の総延長は63キほど。90kgのごみ袋約50袋分に達しました。



▲歩道に落ちているゴミを拾い集めるJA職員

JAでは、平成25年から取り組んでいます。

参加した四ツ子支店管理金融課の富井和義係長は「民家の無い道路では、多くのゴミが落ちていて驚いた。作業中に市民から労いの言葉をかけてもらい、作業に喜びを感じた」と話しました。

JAは、より利用しやすい支店、情報を発信する支店を目指し、支店協同活動を強化していきます。

## 片貝中央支店が JAバンク窓口ロープレ大会

11月17日(土)、JAバンク新潟県信連主催の窓口セールスロールプレイング大会が長岡市で開催されました。

県内のJA10チームが出場し、1チーム2〜5人が「窓口担当者」「後方担当者」「お客様」などの役になり、制限時間7分で競い合いました。

当JAからは9月1日に予選会を勝ち抜いた片貝中央支店チームが出演し、「お客様のニーズに合ったご提案」をテーマに発表しました。

出場した片貝中央支店の星野唯香は「お客様のニーズに合った商品提案を心掛け、信頼される窓口担当者を目指して努力していきたい」と大会を振り返りました。

11月24日(土)、JA越後おぢや年金友の会は、長岡市立劇場で第16回大会を開きました。会員の他、JA共済高額契約者も招待して2回に分けて開き、延べ2300人が来場しました。

大会後のアトラクションでは、北山たけしさんや大江裕さん、山口ひろみさんの歌謡ショーを楽しみました。



▲日頃実践している接客を披露する星野窓口担当

## 歌謡ショー楽しむ 年金友の会が大会

同会の川崎総会長は「会員数が4700人を超え、大会も16回目を迎えた。北山さんらの歌で楽しいひとときを過ごしてほしい」とあいさつ。谷口熊一組合長は、JAの年間年金取扱額などを報告し、協力に感謝を述べました。

来賓のJAバンク新潟県信連の梅澤哲雄常務は「特殊詐欺の犯行手口は、物語を作り、被害者の不安をおおって信頼させる心理戦で迫ってくる。怪しい電話は、家族や警察、JAに相談してほしい」と注意を呼び掛けました。

アトラクション序盤に、JA職員が北山さんらに小千谷産「魚沼コシヒカリ」と花束を贈りました。



▲JA職員から花束を受け取る北山さん



▲ワイキキビーチを散策する観光客

## ハワイ2島巡る JA合併15周年企画

11月4日(日)から9日(金)の6日間、JA越後おぢやは、JA合併15周年を記念し、「ハワイ島&ホノルル6日間の旅」を行いました。組合員ら24人が参加しました。

一行は、落差130mのハワイ島最大の滝「アカカの滝」やテレビCMで知られるモンキーポッドがある公園「モアナルアガーデン」などを観光しました。

## 健康情報ひろば

### 血を綺麗に? 血液浄化療法

厚生連小千谷総合病院  
臨床工学技士 小林雄一

最近「体内環境を整える」といったフレーズを目にすることが増えたように思います。人間の体は5〜7割ほどが水で出来ていますので、体内環境には体の水分、体液が占めるところが大きいと言えます。その中でも最も重要なのが、言わずと知れた「血液」です。

血液は体のすみずみまで全身を巡って体内各所に酸素や栄養素を運び、あるいは老廃物など不要な物を持ち去る働きをしています。血液は、主に腎臓の働きで常に一定の状態を保つように調整されていますが、病気やけが、あるいは劇毒物などの影響で、異常な状態に陥ってしまうことがあります。血液の濃度が異常になったり、また普段とは違う成分が含まれたりすると、体内のさまざまな臓器へ悪影響を与え、場合によっては命に関わることにもなり得ます。

この血液の状態を「整える」治療が血液浄化療法です。血管に針やカテーテルなどを入れて血液を体外に取り出し、人工的に血液の成分調整を行った後体内に戻すことを数時間かけて繰り返し行い



ます。腎不全患者に広く行われている、「血液透析」治療はこの血液浄化療法の一種です。

血液の異常には上に挙げたようにいろいろな原因があり、血液浄化療法もそれぞれに対応するように【血液ろ過】【血液吸着】など多くの種類があります。安倍首相の持病として知られた潰瘍性大腸炎も、血液浄化療法による治療を行う場合があります。これらは透析治療の技術が基礎となり発展したもので、当院でも各種の血液浄化療法を行うことができます。効果には限界もあり、サプリメントほど気軽にはいきませんが、こういった治療があることも知って頂きたいものです。

